

**平成29年度 全国学力・学習状況調査  
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立五箇中学校長

平成29年4月18日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語と数学の2教科の実施となりました。

国語と数学の2教科で、主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

**【本校と全国の平均正答率比較】**

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	77.4%					○
国語B	72.2%					○
数学A	64.6%					○
数学B	48.1%					○

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	75.4%					○
書くこと	85.7%					○
読むこと	73.8%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2%					○

【考察】

- 「文章の要点をとらえる」設問について、「要約」を「省略」ととらえている傾向がありました。文脈における語句の意味を確認させながら読む指導を継続することで改善していきます。
- 「伝えたい事柄について、根拠を明確にする」設問について、つまずきが見られました。事柄を正確に伝えるために、文章を書き直す意図や適否について検討し、話し合う活動を計画的に取り入れていきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項」の領域において、漢字を書くこと、読むことともに高い正答率でした。これまで学習したことを今後も日常的に使用するよう指導するとともに、授業でも国語辞典などを活用し、漢字の部首などの意味についても確認させながら、より深い知識として定着させていきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	72.4%					○
書くこと	60.8%					○
読むこと	72.1%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.1%					○

【考察】

- 国語A、Bともに無解答はなく、生徒の取り組みに頑張りが見られました。
- 資料の読み取りや比較については、日頃の授業でも取り入れている課題であることから高い正答率でした。今後も継続して指導していきます。
- 課題解決のための取材方法や自分の考えをまとめる力が課題です。自分の考えを適確、かつ、簡潔に述べる能力の育成が必要です。スピーチやグループ活動などを通して、意見を交わす場面を計画的に設定していきます。

【数学A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	70.4%					○
図形	66.0%					○
関数	57.4%					○
資料の活用	57.6%					○

【考察】

- 数と式では、基礎的・基本的な内容がしっかりと理解できています。その中で、「二元一次方程式の解の意味の理解」のみ十分に定着していませんでした。「文字への代入」の確認など基本的事項を見直すことで、定着を図っていきます。
- 図形では、錯角の位置関係について、誤答が集中しました。復習を行い、位置関係について再確認させていきます。
- 関数の意味や一次関数のグラフについては理解しているものの、反比例の比例定数や一次関数の変化の割合の意味について理解に課題が見つかりました。基礎的な知識であることから、再度意味を確認し、定着を図ります。
- 資料の活用では、「範囲」の意味を理解していない生徒が多かったです。これまで学習した内容を忘れていた生徒もいたことから、定期的に復習を行い意味を理解させていきます。

【数学B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	46.3%					○
図形	47.1%					○
関数	50.8%					○
資料の活用	49.1%					○

【考察】

- 数学A、Bともに無解答はなく、生徒の取り組みに頑張りが見られました。
- 記述式の問題では、与えられた資料や文章について題意を捉えて、適切な言葉で表現することができない生徒が多く見られました。論理的に考察し表現したり、解答の根拠となる数値やグラフを用いて、資料の傾向を説明したりする取り組みを計画的に授業で取り入れていきます。
- 数と式では、数量の関係を式に表すことに課題が見られました。授業の中で、話す活動や書く活動を取り入れることで、文字式の意味の理解を深め、課題の改善を図っていきます。
- 図形では問題文を読み取り、多くの情報から必要な部分を選び、筋道を立てて証明することができるよう繰り返し指導してきました。このことが、高い正答率となりました。